

「戦旗」週刊化計画

(二千人読者層・編集局)

= おぼての社会民主主義者が社会民主主義的論争の仕事を従事しなければならぬ (L-2) =

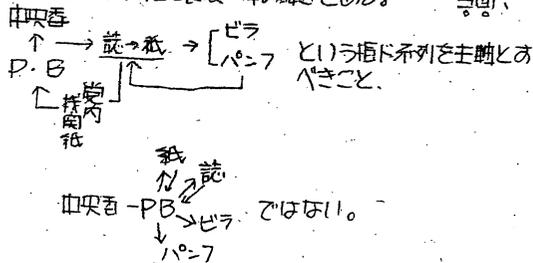
I 戦旗活動の基本的問題 (口述三考) と目標
 七〇日誌の自序における六の生能の自序型政治過程の登場。それを象徴するFの的的任務。< 戦旗 > としての諸階級の政治的。革命的課題としての戦力への< 攻撃 > と< 攻撃 >。
 之れに批判的に即川流の基礎形成。屈伸性にとんはるの保障。之れを象徴する軍事としての< 戦 >。このようなものとして。『戦旗』はわれわれの革命活動の中心として計画され、それによって実現されるべきである。(戦旗の自序の「戦旗」)

階級情勢と革命論を反映して諸派系戦旗。党派的な主義(赤旗)の中核ジャーナリズムの命令主義(前進) 党派評論。革命主義(「解放」) 党派的な政治的科目の政治的内容をまとめるための大衆化させる 星組であること。

II われわれが建立すべき戦旗の性格。諸党派的の頭ごしに大衆への直達のため。至人民政治戦旗。政治的内外の最善の革命の高揚。革命的相対論と至人民(階級) 思想との結合。その結合=媒介としての同盟活動。自序。手紙の位置づけ。政治主義。相対論/階級問題。星組(現場をどうえた)/活動。自序報告。手紙 / 編集局。経営局。

このような編集方針は。編集。経営(筆。相対)の一体化によってのみ進められ得る。分業。自派発生。巨たあくまで相対。結合を前提とすること。

III 編集局への理想と、そのなかにおける編集局
 「戦旗」週刊。主義。階級刊を象徴。維持。発展させること。これを達成するため。編集局への理想とすること。
 其の編集機能の進化。戦旗。系を完成させることにより階級の政治的化と表裏一体の構図である。 当面、



これは当面の階級力量の問題からみれば、党派的化の問題であること。『理論』における無政府主義的対。

附 共産主義

11号 特集 共産主義者同盟七回大会報告決定案
 5月28日 発行予定 B6判 6x70mm
 定価・200円

12号 (予定)
 ・政治論文 - 二中書報告 5月20日 ×切
 ・国際反戦 (上) 6月15日 発行
 ・日本資本主義分析
 ・日米貿易の現状批判
 ・地区反戦 - 社説批判
 ・全学連入野的再建への方針

<七〇日誌案>

ASPAC / 理論自序 (上・下) のつぎ
 日共批判 / 社会党批判 / 諸党批判
 遊楽社社会論 / 民族解放 / 社会主義 /
 差別自序における自派 / 日共組大会
 反戦自序 / 国際共産主義運動と反戦自序 - 8・6 /
 ンターの実現のため。

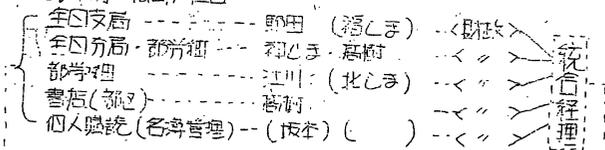
* としてあるとみる習慣と徹底的に拒絶あること。 -- 戦旗紙は目的のためにその筆もついている五人の文筆家に対して。『文筆家』では11筆者から五人。千と11るときに生き生きとした活気のあるものとする。 -- ほんとうに生き生きとした新聞は、送られてきた文書10万の1を掲載し、その10の9を文筆家への情報と指示のために利用することによってつくられる。 おぼての同盟員 - 活字家から編集局へ直接の、(文筆上の意味ではなくとも)手紙を!

VII 地下編集局の技能の充実

『戦旗』ENは、石木・財政情を必要に及ぼすまわっている。10日~7日に一回のガサ。現在の「地下」は、不自由である。(秘を保持することと積極的かつ切の展開の背後) 現在では編集局のみ地下。その技能を充実にすること。 其次、各地レベルでの地下 - 非自由を象徴し、それと結合あること。そのささげられるべき。

IV 編集局体制。同盟の全体的組織活動と相対的に結合して同盟の発展を促す。タリタリ残存の組織として編集局を組織せよ。

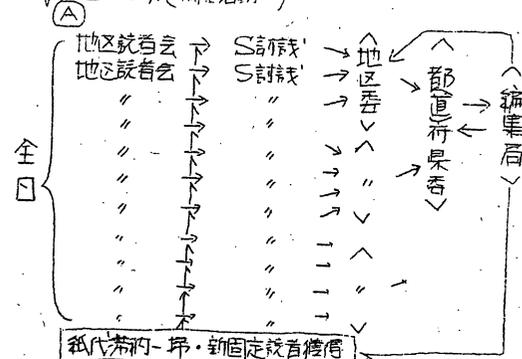
- 戦旗 - 発行に1) なる筆ム内容分析 (省略)
- 現行体制 - 範囲 / 経路



編集局 会談 (松村)

* () 内は、増発予定者。

V 組織活動 (編集活動)



② 街路販売 / 書店

- ① 全日各地で 自序日の販売を!
- ② " 発行翌日の既読販売を!
- ③ " " 赤色書店、主社を申請し、『戦旗販売店』のステッカー (予定) を!

以上 ① ② は、地区常任・S委の主要任務として必ず実行すること。

VI 週刊化へのさしあての条件は、以上を前提として以下三つが条件である。

- ① おぼての戦旗 - 編集局への即時納入 / 活字音に絶対に活用する。N号をうけたるときには(N-1)号の代金をかならず持参・手送せよ!
- ② 編集局体制の確立。階級。
- ③ 機動的な『文筆上』の支援。行切上のフルタイムの習生や、版々の仕事は書くことである。われわれの仕事は読むこと。

(VII) 全国支店配分体制と紙代納入状況

④ 概算増徴数

大阪支社	950
京都支所	400
名古屋	300
札幌	250
岡山	100
	2000

(注) 静岡支局に関してはオ1号の号外で、七国大分と前と増徴数の300部を送っていたが、①紙代を納入しない ②国定購読前に送付を中止し、時の支店任務の放棄を通告してきたので、現在与送を停止している。

⑤ 支局発送について

127~130まで — ニッハツ ... 発送は全くアワラズ
 131, 132 名古屋以西 遠路運搬
 133~ — 業務新聞発送

⑥ 紙代納入状況について

4/19 大阪支社 → 9000円
 5/7 岡山支局 → 6000円
 5/7 札幌支局 → 7000円

新装購読者からの納入 大阪 1600円、
 岡山 800円

これを合計しても、127~132、2万部の発注に対して、たった22400円にしかならない。納入0の京都札幌はもとより、全支局は127号以降の国定部数×10円の送金が週刊化の前に完了されなければならない、このことが、経営上における週刊化の前提である。

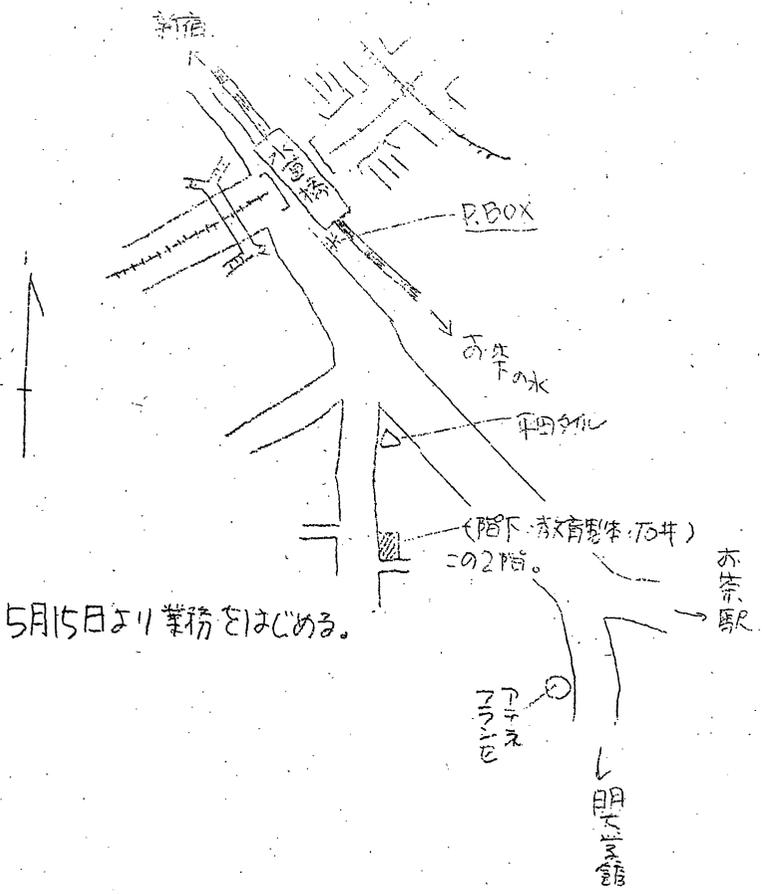
⑦ 支局建設拡大について

仙台(60部)
 茨城(100部)の両支局を週刊化までに支店にしたい。

(X) 単復社本社移転

* 各校校舎にみりて 徹底させること

- 東京都代田区神田猿樂町2-8
- 292-0849 (代表)
- 水直橋駅 徳山(東京よ)下車



(IX)
 ◇「戦旗」週刊化態勢に對する詳細な財政・経営問題について
 ◇都・労働者の「戦旗」配布・活用について

編集局・文藝/神島

週刊「戦旗」経営の収支計画

<この額は対外収>

1. 収入計画 / 全国支局

大阪	¥35,000-
京都	15,000-
名古屋	12,000-
岡山	3,000-
静岡	X
札幌	10,000-
計	¥75,000- (2000部)

全国分局

仙台	¥1,800- (60部) OK
和歌山	1,500- (50部)
茨城	3,000- (100部)
富山	900- (30部)
愛媛	1,500- (50部)
函館	600- (20部) (M級課)
横浜大	900- (30部)
ほか11分局	10,000- (約300)
計	¥30,200- (約640部)

学生分局	¥40,000- (1,200部)
個人購読	¥40,000- (1,000部)
集会等販売	¥24,000- (1,200部)
(地区)街頭販売	
書店扱い	¥15,000- (1,000部)
合計	¥224,200- (7,040部)

2. 支出計画 / 仕入

仕入	¥180,000-
発送費用(封筒)	13,000-
交通費	2,500-
発送費用(送料)	25,000-
合計	¥220,500-

よって、問題点はこれらから増収収支として成立するための、とりわけ支局、2X地区)街頭売り等の収入である。週刊化はこの点こそわが、ている。

以上、左のような感能を、組織的に実現させていくものは、武器として戦旗をわが同盟のあらゆる、諸領域で位置させることであり、全国紙を台新報としての役割を果たし得るか否かも専らそれにかか、ている。いまいきとした政治暴露と鮮明な組織・行動方針とは、あらゆる地区・あらゆる階級・階層について現実の階級社会の革命的止境を担うる階級階級が自ら学ぶのを促進する上で不可欠の課題であり、同時に、工作者として人民の中へ入る革命的使命の担い手にと、ても、又そうである。あらゆる地域で蔓延されている階級階級の息吹を、各戦線・各部署での闘いをますみ、とりあげ、この階級階級性を全地球・全人民の普遍的闘いへと押しひろげ深くさせる契機と内容させる意識性が、紙面の思想的技術的領域にも、その活用一効果・組織(オルタ)一にも、開かれ、ている。

かつて、我々は編者局活動に於ける、一國革命一経済主義又ターリニストの「戦旗」紙面についての(1)マコギ一主義と、(2)一方通行的傾向とを咎め、批判してきた(昨年度夏頃から)。だが、紙面の思想性に専ら限定されたこの努力は、組織活動との結合一活用の領域をおろそかにした空からも、他方では「こんな戦旗は読めない」→「なぐてもいい。」から、戦旗なしの独自運動となり、いわば戦旗が真空地帯におかれるという状況を生み出して来た。

従、て、まず何よりも、組織活動と緊密な結合をも、た戦旗を目指さねばならない。そして、現場の斗争・問題意識を不断に展開させ、現実の諸条件とは無縁に経営目標を掲げるギョクイ運動を断乎として拒否しつつ、紙面の発展をはかることが必要である。前者を以、てこそ、後者の不断の実現も可能であろう。各戦線・階級・地区・学園での粗自主主義と、党的独自活動の等工業性を克服するものとしての、まさに全国政治新聞の意義をこのような姿で獲得していかねばならない。

特別に、郵委興会に於ては、このような組織活動と密着したものとしての戦旗というところが決定点である。

以上が基本的な配布・活用の基本方針なところである。

C. 集会での販売状況

4. 21	¥7,400-	(日比谷)
26	4,700-	(明治)
27	5,500-	(日比谷)
5. 1	15,000-	(代々木)